

第二十二回 貴族院議事速記録第四號

明治三十七年十二月二十八日(水曜日)

午前十時五十分開議

議事日程 第四號 明治三十七年十二月二十八日

午前十時開議

- 第一 明治三十五年法律第四十九號中改正法律案(政府提出案) 第一讀會
- 第二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉 古社寺保存法第十六條ニ依リ國庫ヨリ支出スヘキ金額ニ關スル法律案(政府提出案) 第一讀會
- 第三 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉 郵便貯金法案(政府提出案) 第一讀會
- 第四 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉 實用新案法案(政府提出案) 第一讀會
- 第五 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉 蠶病豫防法案(政府提出案) 第一讀會
- 第六 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉 煙草專賣局及製鐵所据置運轉資本補足ニ關スル法律案(政府提出案) 第一讀會
- 第七 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉 海軍工廠資金會計法案(政府提出案) 第一讀會
- 第八 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉 北海道官設鐵道用品資金會計法廢止法律案(政府提出案) 第一讀會
- 第九 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉 國債證券及貯蓄債券ノ利子所得稅免除ニ關スル法律案(政府提出案) 第一讀會
- 第十 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉 國債證券價格計算ニ關スル法律案(政府提出案) 第一讀會
- 第十一 國債證券價格計算ニ關スル法律案(政府提出案) 第一讀會

- 第二十 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉 在外國帝國專管居留地特別會計法中改正法律案(政府提出案) 第一讀會
- 第二十一 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉 明治三十八年度歲入歲出總豫算案並明治三十八年度各特別會計歲入歲出豫算案(政府提出案) 會議(豫算委員) 長報告
- 第二十二 豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件(政府提出案) 會議(豫算委員) 長報告
- 第二十三 臨時軍事實費豫算追加案(政府提出案) 會議(豫算委員) 長報告
- 第二十四 明治三十七年度歲入歲出總豫算追加案(第一號)(政府提出案) 會議(豫算委員) 長報告
- 第二十五 明治三十七年度各特別會計歲入歲出豫算追加案(特第一號)(政府提出案) 會議(豫算委員) 長報告
- 第二十六 豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件(追第二號)(政府提出案) 會議(豫算委員) 長報告
- 第二十七 相續稅法案(政府提出案) 第一讀會ノ續(特別委員) 長報告
- 第二十八 登錄稅法中改正法律案(政府提出案) 第一讀會ノ續(特別委員) 長報告
- 第二十九 非常特別稅法中改正法律案(政府提出案) 第一讀會ノ續(特別委員) 長報告
- 第三十 酒造稅法中改正法律案(政府提出案) 第一讀會ノ續(特別委員) 長報告
- 第三十一 酒精及酒精含有飲料稅法中改正法律案(政府提出案) 第一讀會ノ續(特別委員) 長報告
- 第三十二 麥酒稅法中改正法律案(政府提出案) 第一讀會ノ續(特別委員) 長報告
- 第三十三 沖繩縣酒類出港稅則中改正法律案(政府提出案) 第一讀會ノ續(特別委員) 長報告
- 第三十四 酒母、醪及麴取締法案(政府提出案) 第一讀會ノ續(特別委員) 長報告
- 第三十五 酒造組合法案(政府提出案) 第一讀會ノ續(特別委員) 長報告
- 第三十六 關稅定率法附屬輸入稅表中改正法律案(政府提出案) 第一讀會ノ續(特別委員) 長報告
- 第三十七 商業會議所法中改正法律案(衆議院提出) 第一讀會ノ續(特別委員) 長報告

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程ニ移リマス前ニ諸君ニ御諮リテ申上ゲマスコトゴザイマス、此度東郷海軍大將、上村海軍中將ガ大本營ヨリノ御召ニ依リマシテ不日著京イタサレマス趣ヲ傳聞イタシマシタ、著京ノ當日、議長ハ貴族院ヲ代表イタシマシテ新橋ニ出迎ヘマシタ方ガ宜カラウカト考ヘマシテ唯今部長諸君ニ御相談ヲ致シマシタガ、皆議長ト同シ御考デゴザイマシタ、議員諸君ニ於カレマシテモ御異存ハアルマイルト存ジマスガ、一應其事ヲ諸君ニ御諮リテ致シマス

〔贊成〕異議ナシト呼ブ者多シ

○議長(公爵徳川家達君) 然ラバ唯今、議長ガ申上ゲマシタコトハ全會一致ト認メマス、著京ノ日ニ諸君ヲ代表イタシマシテ新橋ヘ参リマスル積リデゴザイマス、本日ノ報告ノ件ハ官報ヘ出マシタ通りデスカラ當議場デハ省略ヲ致シマス、御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

〔左ノ報告書ハ朗讀ヲ經ザルモ參照ノタメ茲ニ載録ス以下之ニ做フ〕
 一去ル二十六日承諾スルコトヲ議決シタル左ノ政府提出案ハ即日内閣總理大臣ヲ經由シテ之ヲ奏上シ及承諾ノ旨ヲ衆議院ニ通知セリ

明治三十七年勅令第二百十二號(承諾ヲ求ムルノ件)

○議長(公爵徳川家達君) モウ一ツ御相談ヲ致シマスガ、本日ノ議事日程ノ第二十三ヨリ第二十八マデノ議案ハ都合ニ依リマシテ繰上ゲマシテ議事日程ナ變更シテ御異存ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者多シ

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ガ無ケレバ左様イタシマス、就キマシテハ議事日程第二十三ヨリ第二十八マデ東ネマシテ豫算委員長ノ報告ヲ煩シマス、正親町伯爵

同日委員長ヨリ左ノ政府提出案可決報告書ヲ提出セリ

明治三十八年度歳入歳出總豫算案

明治三十八年度各特別會計歳入歳出豫算案

豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件

臨時軍事費豫算追加案

明治三十七年度歳入歳出總豫算追加案(第一號)

明治三十七年度各特別會計歳入歳出豫算追加案(特第一號)

豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件(追第二號)

登錄稅法中改正法律案

一同日特別委員長ヨリ左ノ政府提出案修正報告書ヲ提出セリ

相續稅法案

一昨二十七日商業會議所法中改正法律案特別委員會ニ於テ當選シタル委員長及副委員長ノ氏名左ノ如シ

委員長 子爵青山 幸宜君 副委員長 辻 新次君

一同日特別委員長ヨリ左ノ可決報告書ヲ提出セリ

商業會議所法中改正法律案

非常特別稅法中改正法律案

酒造稅法中改正法律案

酒精及酒精含有飲料稅法中改正法律案

麥酒稅法中改正法律案

沖繩縣酒類出港稅則中改正法律案

酒母、醪及麴取締法案

酒造組合法案

關稅定率法附屬輸入稅表中改正法律案

一本日豫算委員長ヨリ左ノ政府提出案可決報告書ヲ提出セリ

明治三十八年度歳入歳出總豫算追加案(第一號)

○議長(公爵徳川家達君) モウ一ツ御相談ヲ致シマスガ、本日ノ議事日程ノ第二十三ヨリ第二十八マデノ議案ハ都合ニ依リマシテ繰上ゲマシテ議事日程

ナ變更シテ御異存ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者多シ

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ガ無ケレバ左様イタシマス、就キマシテハ議事日程第二十三ヨリ第二十八マデ東ネマシテ豫算委員長ノ報告ヲ煩シマス、正親町伯爵

同日委員長ヨリ左ノ政府提出案可決報告書ヲ提出セリ

明治三十八年度歳入歳出總豫算案

明治三十八年度各特別會計歳入歳出豫算案

豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件

臨時軍事費豫算追加案

明治三十七年度歳入歳出總豫算追加案(第一號)

明治三十七年度各特別會計歳入歳出豫算追加案(特第一號)

豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件

臨時軍事費豫算追加案

明治三十七年度歳入歳出總豫算追加案(第一號)

明治三十七年度各特別會計歳入歳出豫算追加案(特第一號)

豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件(追第二號)

一明治三十七年度各特別會計歲入歲出豫算追加案(特第一號)
一豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件(追第二號)
右衆議院ヨリ送付シタル各案ヲ審査シ總テ衆議院議決案ノ通可決スヘキモ
ノナリト議決ス依テ及報告候也

明治三十七年十二月二十六日

豫算委員長

伯爵正親町實正

貴族院議長公爵德川家達殿

〔伯爵正親町實正君演壇ニ登ル〕

○伯爵正親町實正君 豫算委員會ノ經過並ニ結果ニ付キマシテ御報告申上ゲ
マス、本年ノ豫算委員會ニ於キマシテ別段殊更ニ御報告申上ゲマスルヤウナ
コトハ何モゴザイマセヌノデスガ、之ヲ大體カラ申上ゲマスレバ政府ノ送付
案ニ對シマシテ衆議院ニ於キシマテハ歲出ニ於テ三萬圓……歲入ニ於キマシ
テ三萬圓、ソレカラ歲出ニ於キマシテハ百一萬九千九百四十三圓ノ修正減額
ニナツテ居リマス、デ此減額ハソレハ非常特別稅法ノ稅目ノ修正ニ依リマシ
テ、其結果ト致シテ數百萬ノ缺陷ガ生ジマシタ、其軍事費ノ缺陷ヲ補充スル
ノ一部分トシテ此總豫算ヨリ百萬圓ヲ減ジマシタ譯デアリマス、其減シ方ハ
ドウ云フ風ニナツテ居ルカト申セバ、各省ニ少シツ、振撤キマシテ各省ノ廳
費若クハ旅費ノヤウナ所カラ少シツ、減額ニナツテ居リマス、而
シテ本年ハ此歲入ニ於キマシテハ此春ノ非常特別ノ法案ノ結果トシテ大分増
額ニナツテ居リマス、而シテ歲出ノ方ハ成ルベク緊縮ノ目的ヲ以テ御覽ノ通
リ大分減額ニナツテ居リマス、ソレガ故ニ當年ハ新事業等ハ一切要求ハ致シ
マセヌ、大體ニ於キマシテハ左様ナコトニナツテ居リマス、ソレカラ此乙號
ニ於キマシテ一度繼續費ノ年度割ヲ廢サレマシタガ、本年ハ更ニ政府ヨリ修
正案トシテ出マシテ再ビ又此年度割ノ金額ヲ玆ニ計上スルト云フコトニ變リ
マシタ、ソコデ各分科ニ於キマシテモ十分ノ審査ヲ遂ゲマシタ譯デゴザイマ
スガ、併ナガラ本院ニ於キマシテ修正ナスル所ノ必要モ認メマセヌ爲ニ總テ
衆議院ノ送付案通リニ可決イダシタト申ス各分科ノ主査ヨリノ報告デゴザイ
マス、ソコデ豫算委員ノ總會ニ於キマシテモ、多少ノ質問ハゴザイマシタケ
レドモ、矢張り各分科ノ主査ノ報告通リ總テ衆議院ノ送付案通リニ決定スル
ト云フコトニ極マリマシタ、ソレダケデ別ニ申上ゲルコトハ何モゴザイマセ

ヌ、次ハ各特別會計歲入歲出豫算デアリマスガ、其次ハ豫算外國庫ノ負擔ト
ナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件、此兩案共ニ矢張り前同様ノ理由ヲ以チマシ
テ、總テ衆議院ノ送付案通リニ可決イダシマシタ、ソレカラ其次ハ臨時軍事費
豫算ノ追加デゴザイマス、實ハ此度ノ豫算ハ此軍事費ガ最モ重モナル豫算デ
アリマシテ御覽ノ如ク此豫算案ハ斯ノ如ク單簡ナ案デハゴザイマスルガ、其
内容ノ金額ニ至リマシテハ實ニ古今未會有ノ大豫算デゴザイマス、併ナガラ
此大豫算ニ對シマシテモ一方ニハ實ニ開關以來ノ事局ノ際デアリマシテ、ソ
レニ對スル所ノ軍費ト云フコトデゴザイマスレバ、是亦如何トモ致シ方ノ無
イ譯デゴザイマシテ委員會ニ於キマシテモ全會一致ヲ以テ何ノ異議ナク大贊
成ヲ表シタ譯デゴザイマス、是ダケノコトヲ申上ゲマス、ソレカラ次ハ三十
七年度歲入歲出總豫算追加案、三十七年度各特別會計歲入歲出豫算追加案、
豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件、是等モ審議ヲ遂ゲマシ
タガ、是ハ詰リ法律ノ結果トカ、若クハ已ムヲ得ザル追加バカリデゴザイマ
シテ、衆議院ニ於キマシテモ何ノ修正モ無ク原案通リ可決ト云フ報告ニナツテ
居リマスガ、此貴族院ノ豫算委員會ニ於キマシテモ別段修正ヲ試ミル必要モ
認メマセヌデゴザイマシテ、三案共ニ原案通リ矢張り可決イダシマシタ、右
ノ次第ヲ御報告イタシマス

○議長(公爵德川家達君) 衆議院ヨリ送付セラレマシタ豫算案ニ對シテ一ノ
修正モゴザイマセヌカラ議事日程第二十三、即チ明治三十八年度歲入歲出總
豫算案並明治三十八年度各特別會計歲入歲出豫算案、ソレニ第二十四ノ豫算
外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件、此二冊ヲ問題ニ供シマス、…
…別段御發言ガゴザイマセヌバ御異議ナイモノト認メテ宜シウゴザイマスカ
〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 然ラバ可決イダシマシタ

○議長(公爵德川家達君) 次ハ議事日程第二十五、臨時軍事費豫算追加案ヲ
問題ニ供シマス、別ニ御發言ガゴザイマセヌバ採決ヲ致シマス、臨時軍事費
豫算追加案、之ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

總員 起立

○議長(公爵德川家達君) 全會一致ト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 次ハ第二十六ヲ問題ニ供シマス、御異議ナイト認メテ宜シウゴザイマスカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者多シ

○議長(公爵德川家達君) 然ラバ可決セラレマシタ、次ハ議事日程第二十七並ニ第二十八、御異議ナイト認メテ宜シウゴザイマスカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者多シ

○議長(公爵德川家達君) 然ラバ可決セラレマシタ

○伯爵正親町實正君 此際ニ於キマシテ議事日程ヲ追加サレマシテ唯今豫算委員總會カラ報告ヲ致シマシタ所ノ第一號、明治三十八年度歳入歳出總豫算追加案、之ヲ此次ニ加ヘテ議セラレムコトヲ希望イタシマス

○男爵中川興長君 贊成

○議長(公爵德川家達君) 唯今正親町伯爵ノ議事日程追加ノ動議ニハ御異存ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者多シ

○議長(公爵德川家達君) 然ラバ議事日程ヲ追加イタシマス

一明治三十八年度歳入歳出總豫算追加案(第一號)

右衆議院ヨリ送付シタル案ヲ審査シ衆議院議決案ノ通可決スヘキモノナリト議決ス依テ及報告候也

明治三十七年十二月二十八日

豫算委員長

伯爵正親町實正

貴族院議長公爵德川家達殿

○伯爵正親町實正君 是ハ極簡單デアリマスカラ此席カラ報告ヲ致シマス、此追加豫算ハ此度提出サレマシタ所ノ非常特別稅改正法律案ノ結果ト致シマシテ歳入ニ増加ヲ來シマシタ、詰リ其歳入經常部ノ豫算デアリマス、ソレト此歳出臨時部ハ是ダケノ金額ヲ通常歳出臨時特別會計ニ繰入レルト云フ極簡單ナルモノデアリマス、是亦委員會ニ於テハ何ノ異議ナク總テ原案ノ通り可決ト云フコトニナリマシタ、一言申上ゲマス

○議長(公爵德川家達君) 正親町伯爵ニチヨット申上ゲテ置キマスガ、此唯

今ノ議事日程追加ニナリマシタ豫算ハ此法案ノ可決セラレマシタ後ノ方ガ穩當デアラウト思ヒマス、ソレデ御異議ハゴザイマセヌカ

○伯爵正親町實正君 異議ハアリマセヌ

○議長(公爵德川家達君) 諸君ニ於テモソレデ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○議長(公爵德川家達君) 議事日程二十九ニ移リマス、相續稅法案第一讀會ノ續、特別委員長報告、登錄稅法中改正法律案ニ同一委員ニ付託セラレテアリマスカラ、委員長ノ報告ハ束ネテ煩ハシマス

相續稅法案

右別冊ノ通り修正セリ依テ及報告候也

明治三十七年十二月二十六日

右特別委員長

公爵二條基弘

貴族院議長公爵德川家達殿

(特別委員ノ修正ニ係ル項ノミヲ掲ク)

附則

本法ハ明治三十八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法ノ施行ハ非常特別稅法ノ施行中ニ限ル

登錄稅法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決ス依テ及報告候也

明治三十七年十二月二十六日

右特別委員長

公爵二條基弘

貴族院議長公爵德川家達殿

〔公爵二條基弘君演壇ニ登ル〕

○公爵二條基弘君 是ヨリ相續稅法ノ委員會ニ於キマシテノ經過並ニ結果ヲ御報道イタシマス、此法案ノ會議ハ前後二日掛ッテ終了シタモノデゴザイマス、委員會ニ於キマシテモ質問ハ種々アリマシタガ、其中一番重モナル點ハ此動産ト云フコトニ區分ヲ付ケルガ宜カラウト言フ説ガ出マシタ、此事ニ付キマシテ政府ノ意向ヲ聞クモ宜シ並ニ又委員會ニ於テ此事ニ付テ説明ヲ求メ

ヤウト云フコト第二日目ニ大藏大臣ノ出席ヲ請ヒマシテ、サウシテ此動産ニ付イテハドウ云フ工合ニ區分ナスルカ否ヤト云フコトノ質問ガ出マシタ、デ大藏大臣ノ答ヘラレルニハ此動産ト云フモノハ民法上ノ動産トシテ少シモ違ヒハナイケレドモ併シ此法案ニ於テハ全クドレモ是モ動産トシテ稅ヲカケルコトハ宜シクナイ積リデア、ソレデ此動産ニ區分ナ付ケルニハ營利ノ目的ナセザルモノ、サウシテ日用ノ器具ト此ニツニ限ツテハ稅ヲ課サナイ、即チ營利ノ目的トセヌト云フノハ其家ニ傳ツテ居ル所ノ什器、即チ書畫トカ或ハ刀劍ナリ又ハ書物、サウ云フモノハ少シモ營利ノ目的デナクシテ家ニ持ッテ居ル以上ハ稅ヲカケヌ、日用ノ什器ハ今日日用ニ使ツテ居ル其ニツノモノニハ稅ヲカケナイ、ソレハ此法案ガ出タナラバ何レ訓令ヲ以テ箇條書ニシテ、斯ウ云フモノニハ稅ヲカケナイヤウニスルト云フコトデアリマシタ、委員會ニ於キマシテモ此點ニ於テ明瞭ニ區分ガ付キマスナラバ別段ノ異存ハ無イノデアリマス、ソレデ總テ此法案ノ本條文ニ就キマシテハ委員會ニ於キマシテ今日些細ナルコトニ於テマデモ立入ッテ修正ヲ加ヘルト云フコトハシタイケレドモ、併シ時局ノコトデモアリ、又サウ云フコトヲシテ委員會ニ於テ時日ヲ遷延シタナラバ從ツテ追加豫算等ニモ波及ナシテ總テ速急ノ豫算ノ方モ極マルコトガ出來ヌト云フコトデアッテ、即チ今日ノ軍事ニ於テ大ニ差支ヲ生ズル譯デアルカラ、我々ハサウ云フコトハ甚ダ望マシクナイ、依ッテ此際ハ此法案ハ誠ニ不十分デア、依ッテ修正ハ加ヘタイケレドモ此際ハ忍ンデサウ云フコトハセズシテ何レ此戰役ノ終局ノ後ニ他ノ法律案ノ増稅案モ改正サル、時ガアルカラシテ其時ニ一緒ニシテ我ガ國情ニ適シタヤウニ此法案ヲ修正シテ貫フコトニシタイ、其目的ヲ以テ今回ハモウ別段何モ手ヲ著ケズシテ通サウト云フコトニナリマシタ、ソレデ本條文ノコトニ付キマシテハ一モ衆議院ノ送付案ニハ手ヲ著ケズ其通リニナリマシタノデアリマス、唯此附則ニ至リマシテ貴族院ニ於テハ是ニ修正案ガ成立ツタノデアリマス、即チ此附則ノ第二項ニ「本法ノ施行ハ非常特別稅法ノ施行中ニ限ル」ト云フコトガ這入りマシタ、是ハ別段ニソレホド意アッテ爲シタト云フ譯デアアリマセヌケレドモ、唯我々委員ノ紀憂ト云フモノハ此法案ト云フモノノ理由書ヲ見レバ全ク非常特別稅法案ノ性質ヲ持ッテ居ルノデア、サウシテ實質ハドウカト云ヘバ即チ永久法ニナッテ居ル、此儘ニシテ置ケバ假令戰爭終局後ニ至ッテモ政府ニ於テ修正ヲスルトハ云フモノノ何時之ヲ修正サル、カ、甚ダ其場合ガ懸

念デア、國民ハ非常ノ負擔ヲ持ッテ居ル今日、尙ホ此重キ負擔ヲセヌケレバナラヌ、依ッテ一日モ早ク此負擔ハ成ルベク輕クスルヤウニシタイト云フ精神デア、ソレデ此法案ハ此際ハ致シ方ガ無イ、又此際ニ斯ウ云フ法ニ據ッテ其負擔ヲ持ッ人ハ甚ダ氣ノ毒デアリマスガ、是ハ戰爭ノ今日致シ方ハ無イ、デ戰事ノ終局ノ後ニハ我ガ國體上ニ適當シタル方法ニ篤ト修正ナシ即チ此法案ノ出テ居ル期間ニ於テハマダ大分アリマセウカラ、其間ニ於テ政府ニ於テモ十分ニ事實上ノ調査モ出來マセウ、又我々モ其間ニ於テ考ヘテ置イタナラバ他日ノ修正ニ於テ大ニ便宜デアラウ、故ニ此際ハ非常特別稅ノ性質トシテ永久法ト見ナイヤウナ姿ハアリマスケレドモ、決シテ我々ハサウ言フ譯デアナイ、矢張り永久法ニハ相違ナイ、唯時日ヲ延ベテ修正ヲ早カラシメルト云フコトデアリマス、ソレデ斯ク致シマシタ所デ少シモ全文ニ於テ一ノ修正モ無イ以上ハ之ヨリ生ズル所ノ金額ニ於テハ政府ノ望ミニ少シモ背イタ譯デアナイト信ジテ居ッタデアリマス、ソレデサウ云フ譯ヲ以チマシテ委員會ニ於テハ單一ノ附則ニ修正ヲ加ヘタノミデアリマス、デモウ大體ニ於キマシテ、委員會ニ於テノ重モナルコトハ是ダケニ止メテ置キマス、デ此大ニ此問題ニナッテ居ル所ノ登錄稅法中改正法律案ノコトニ付イテ御報告ヲ致シマスガ、是ハモウ全會一致ヲ以チマシテ何ノ異議モ無ク衆議院送付案ノ通り可決ニナリマシタ譯デアリマス、願クハ御贊同アッテ通過セラレンコトヲ希望イタシマス

〔村田保君發言ノ許可ヲ求ム〕

○議長(公爵徳川家達君) 村田君ハ何デスカ

○村田保君 少々委員長ニ質問イタシタイ

○議長(公爵徳川家達君) 村田君

○村田保君 唯今委員長カラ御報告ニナリマシタ所ハ本員ハ前後矛盾シテ居ルト思ヒマスカラ、チヨット承リタイ、委員長ノ御説明デゴザイマス、此法案ト云フモノハドウモ不十分デアアルケレドモ此戰時ノ際デアアルカラシテ本條ニ於テハ一字モ修正ナシナイ、然ルニ此附則ニ於テ修正ナスルト云フコトデアリマス、其附則ニ於テ修正ナスル所ノ趣意ト申シマスルモノハ、全體此法案ハ惡イカラシテ、此次ニ修正ナスル、修正ナスルカラシテ豫メ修正ナスルト云フコトナバ、今日ヨリ此附則ニ於テ示シテ置クト云フ趣意ノヤウニ承リマシタガ、果シテサウデゴザイマスカ

○公爵二條基弘君 豫メ修正ナスルト云フコトヲ示スノデアルト申スコトハ申シマセヌケレドモ、併シ是ガ這入ッテ居レバ他日修正ナスルニモ都合ガ宜カラウト云フノデ、委員會デハ斯ウ云フ修正ニナリマシタノデゴザイマス

○村田保君 所ガサウ云フコトガ是マデアッタノデゴザイマセウカ、伺ヒタイ、貴族院タルモノハ一體法律ガ惡イト見レバ何時デモ修正ガ出來ル譯デアリマス、修正バカリデハナイ、法律ヲ廢シテモ宜イノデアアル、行ッテ見テ其法律ガ惡イト見レバ何時デモ廢スルコトガ出來マス

〔子爵谷干城君「村田君ノハ議論ニ亙リハシマセヌカ」ト呼ブ〕

委員會ノ御見込デハ斯ウ云フコトヲ掲ゲテ置カナレバ他日修正ガ出來ヌト云フ御趣意デアリマスカ、チヨットソレヲ伺ヒタイ

○公爵二條基弘君 無論イツデモ修正ナスルコトハ出來マスガ、併ナガラズウ云フ法文ヲ置ケバ尤モ他日修正ノ途ヲ早ク……早メルト云フコトニナラウト云フ考カラ修正ヲ加ヘマシタノデゴザイマス

○村田保君 併ナガラズウ云フ修正ヲ加ヘルトキニハ衆議院ノ方ヘ此案ヲ戻サヌケレバナリマセヌ、ソレヲ御承知ノ上デ修正ナサッタノデアリマセウカ

○公爵二條基弘君 是ガ可決ニナレバ無論衆議院ニ返スコトニナリマス

○伯爵正親町實正君 唯今委員長ノ報告ガゴザイマシテ、ソレニ付テ村田君カラ御質問ガゴザイマシタ、私ハ委員ノ一人トシテ尙ホ委員長ノ報告ヲ敷衍シテ一言シテ置キタイト思ヒマス、此相續稅法案ノ附則ニ於テ一箇條ヲ加ヘマシタ理由ト云フモノハ、既ニ唯今委員長ノ報告モゴザイマシタガ、實ハ此相續稅法案ニ付キマシテ、委員會ニ於キマシテハ餘ホド修正ヲ加ヘタイト云フ考モゴザイマシタ、併ナガラズ今之ヲ委員會ニ於キマシテ色々修正ヲ致シトルト云フト餘ホド時日ヲ要スル譯ニナル、然ルニ此法案ハ一方ノ軍事費ノ財源ニモ關聯シタ所ノ法案デアリマスルカラシテ、徒ラニ……徒ラデハナイガ、

此相續稅法案ノ修正ナスル爲ニ一方ノ大事ナ軍事費ノ決議ヲ延期セシムルノハ最モ我々ノ忍ビヌ所デゴザイマスカラ、甚ダ不十分デハアルケレドモ、先ヅ此所ハ是デ通シテ置カウ、先ヅ右ノ如キ法案デアルカラ一時此議會ヲ通シテ置イテ、其中ニ政府ニ於テモ實驗ヲ致シ又議員ノ方ニ於テモ能ク熟慮イタシテ、サウシテ更ニ戰後ニ於テハ適當ノ法案トシテ出サレルヤウニシタイ、サウスレバ一時此法案ハ非常特別稅ノヤウナ一時ノ法案ノ如クニハ見エマスルケレドモ、戰局治ツタ後ニ適當ナ法案ガ出レバ矢張り事實ニ於テハ永久繼續

スルモノトナル、ソレデ必シモ我々委員ニ於キマシテモ此相續稅法ハ絶對的ニ非常特別稅ノ性質ニナラナケレバナラヌト云フ意味デハナイ、成ルホド此法案ハ性質上、永久稅トシテ宜シイカモ知レマセヌケレドモ、何分此法案ハ始ノテ我國ニ行ハレル法案デモアリ、又大ニ此法案ハ我國ノ制度習慣ニモ關係スル所ノ法案デアルカラ之ヲ永久ニ實行スル以上ニハ餘ホド熟考ヲ要サナケレバナラヌト云フ意味カラシテ修正ヲ加ヘタノデアリマス、併ナガラズレハ唯今申上ゲル理由ニ依ッテ此軍國ノ際ニ多ク時間ヲ費シテ居ル譯ニハイカヌカラ、先ヅ一時非常特別稅トシテ通過サセマシテ、サウシテ戰局ノ治ツタ後ニ完全ナル法案ニシテ出シタイト云フ考カラ此附則ノ中ヘ一條ヲ入レマシタ、チヨット一言イタシテ置キマス

〔子爵谷干城君發言ノ許可ヲ求ム〕

○議長(公爵德川家達君) 谷子爵ハ……

○子爵谷干城君 私ハ此委員會ノ報告ニ反對ノ意見ヲ述ベタイ

○議長(公爵德川家達君) ソレデアリマス、逐條議ニ移ッテカラニ願ヒタイ、併シ大體ニ付テノコトデアリマスカ

○子爵谷干城君 逐條ガ濟ンダ終ヒデモ宜シウゴザイマス、ドコデモ宜シウゴザイマス

○議長(公爵德川家達君) 然ラバ第二讀會ニ移リマシテカラニ願ヒマセウ

○子爵谷干城君 ハイ

○議長(公爵德川家達君) 相續稅法案ヲ第二讀會ニ移シテ御異存ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 然ラバ第二讀會ニ移ルコトニナリマス

○男爵中川與長君 直チニ第二讀會ヲ開カレムコトヲ望ミマス

〔贊成ト呼ブ者多シ〕

○議長(公爵德川家達君) 直チニ第二讀會ヲ開イテ御異存ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 然ラバ直チニ第二讀會ヲ開キマス、第一條ヨリ第二十五條マデ束ネテ問題ニ供シマス、……別ニ御發言ガゴザイマセヌバ御異議ナイモノト認メマシテ宜シウゴザイマスカ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 然ラバ可決セラレマシタ、次ハ附則ヲ問題ニ供シマスガ、此探決ハ二ツニ分ケテ致シマス、即チ「本法ハ明治三十八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス」是ダケヲ先ヅ問題ニ供シマス、是ハ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 然ラバ御異議ナイモノト認メマス、次ハ委員會ノ修正ヲ問題ニ供シマス

〔子爵谷干城君演壇ニ登ル〕

○子爵谷干城君 私モ此委員ノ一人デゴザイマスルガ、唯今申上ゲマスノハ委員ノ一人ノ資格デアリマセヌ、全ク議員ノ資格デ申上ゲマス、ソレデ委員長ヨリ御報告ニモナリマスシ、又唯今正親町伯爵カラモ詳細ノ御辯解ガゴザイマシタガ、要スル所、私ノ考ニハ此度ノ法案ハ之ニ限りマセズ、殊ニ此七億ナンボト云フ容易ナラヌ大金ヲモ此時局ニ依ッテ直チニ議決ニナリマシタト云フモノハ、國家ニ對スル赤誠ノ致ス所ト私ハ深く信ジマスル、シマスレバ此附則ヲ附ケタレバ宜シウゴザイマセウガ、之ガ爲ニ一日二日延引チシマシテ、ソチコチ日月ヲ取ル程ノ價值ハアルマイカト考ヘマスル、斯ウナリマスレバ必ズ此貴族院ノ院議ヲ重ンジテ同意セラル、コトハ私ハ信ジテ疑ヒマセヌ、併ナガラ今申ス通り何モカモ大ナルモノガ悉ク通過シテ居リマスル今日デアリマスカラ、ドウカ是等ノ事ハ當院ニ於キマシテハ修正ヲ加ヘマセズ即チ委員ノ修正案ヲ否ト致サレテ衆議院修正案ノ通りニ奇麗ニ通過イタシマシテ圓滿ニ此局ヲ結ビタイト思ヒマス、諸君ノ御賛成ヲ願ヒマス

○南郷茂光君 賛成

○男爵石黒忠恵君 賛成

○男爵松平正直君 賛成

○男爵川口武定君 賛成

○議長(公爵徳川家達君) チヨット御注意マデニ申シマスガ、必ズ多數ノ賛成者ヲ要スルノデハゴザイマセヌカラ……

○三浦安君 賛成

○村田保君 本員モ意見ヲ述ベタイト思フノデス、唯今ノ谷子爵ノト同様ナ考ヲ持ッテ居リマスケレドモ尙ホ少シ附加ヘタイト思ヒマス、其所ヘ出マシ

テモ宜シウゴザイマスガ、此所デモ宜シウゴザイマスカ

○議長(公爵徳川家達君) 願クハ演壇ヘ御出テ願ヒマス

〔村田保君演壇ニ登ル〕

○村田保君 此際デスカラ簡單ニ申述ベマスガ、全ク谷子爵ト同感ノ意見ヲ持ッテ居ル、此クラキ拙ナ修正ハ無イト思ッテ居リマス、貴族院トシテ斯様ナ卑屈ナル修正ヲスルノハ本員ハ如何ニモ遺憾ト思ヒマスカラ一言シタイト思ヒマス、此相續税法其物ハ宜イト認メル、宜イト認メルケレドモ文字ガ惡イ、法案ガ惡イカラ修正シナケレバナラヌ、此後ノ修正ヲバズルノニ餘ホド便利デアルカラ此追加ヲ加ヘルト云フノハ實ニ分ラヌ修正ト思ヒマス、今日マデニマダ大分本員ナドノ與ッテ居リマシタ鹽專賣ハ如何デアリマスカ、事柄ハ宜イガ法文ニ於テハ最モ惡イ事ガアル、本員ナド十分修正シタイ事ガアル、本員バカリデハナイ皆サンモ同様ナ御考ヘダラウト思ヒマス、鹽專賣法案ハ殘ラズ宜イト御認メデアリマスカ、必ズ惡イニ違ヒナイ、是ハ他日ノ修正ハ實際行ッタ上デ惡ケレバ、ドナイニデモ修正ハ出來ル、又廢棄モ出來ル、ソレダケノ權能ハ我クハ有シナガラ、本文ニ於テハ修正シタイコトガ多イ、併シ戰時ノ場合、斯ウ云フ事ヲ修正シテ衆議院ナドヘ送ッテ、サウシテ協議會ヲ開クト云フコトハ誠ニ面白クナイカラ我慢チシテ修正チシナイ、併ナガラ追加ハ或ハ修正デナイト言ハルルカ知ラヌガ修正デス、サウスレバ矢張り衆議院ヘ持ッテ行ッテ協議會ヲ開カナケレバナラヌデアリマスカラ、ドウゾ此儘御通過アラムコトヲ希望シマス

○子爵曾我祐準君 村田君ノ有名ナル御演説ヲ以テ、大多數ヲ以テ否決セラ

ル、デアリマセウ、ドウカ御採決ヲ願ヒマス

○議長(公爵徳川家達君) 委員會ノ修正説ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス
起立者 少數

○議長(公爵徳川家達君) 大少數デアリマス、然ラバ自然ニ削除セラレタルモノデアリマス、是ニ於テ第二讀會ハ終リマシタ

○公爵二條基弘君 引續イテ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス
〔賛成ト呼ブ者多シ〕

○議長(公爵徳川家達君) 二條公爵ノ動議ニハ賛成ノ聲ガ大分聞エマシタ、直ニ三讀會ヲ開イテ御異存ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 然ラバ第三讀會ヲ開キマス

○議長(公爵德川家達君) 第二讀會ノ決議通リデ御異存ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者多シ

○議長(公爵德川家達君) 然ラバ三讀會ハ終リマシタ、次ハ第三十、登錄稅法中改正法律案ノ議事ヲ開キマス

○伯爵大原重朝君 此案ハ讀會ヲ省略サレテ直チニ可決セラレムコトヲ希望

イタシマス

○公爵二條基弘君 贊成

○松本鼎君 贊成

○南郷茂光君 贊成

〔其他〕贊成ト呼ブ者多シ

○議長(公爵德川家達君) 讀會省略ノ大原伯爵ノ動議ハ定規ノ贊成ガアッタト認メマス、讀會省略ニ御異存ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者多シ

○議長(公爵德川家達君) 採決イタシマス、原案デ御異存ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者多シ

○議長(公爵德川家達君) 然ラバ可決セラレマシタ、次ハ第三十一ヨリ同一委員ニ付セラレマシタカラ第三十八マデ東ネテ委員長ノ報告ガアル筈デアリマス

非常特別稅法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決ス依テ及報告候也

明治三十七年十二月二十七日

右特別委員長

侯爵黒田 長成

貴族院議長公爵德川家達殿

酒造稅法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決ス依テ及報告候也

明治三十七年十二月二十七日

右特別委員長

侯爵黒田 長成

貴族院議長公爵德川家達殿

酒精及酒精含有飲料稅法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決ス依テ及報告候也

明治三十七年十二月二十七日

右特別委員長

侯爵黒田 長成

貴族院議長公爵德川家達殿

麥酒稅法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決ス依テ及報告候也

明治三十七年十月二十七日

右特別委員長

侯爵黒田 長成

貴族院議長公爵德川家達殿

沖繩縣酒類出港稅則中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決ス依テ及報告候也

明治三十七年十二月二十七日

右特別委員長

侯爵黒田 長成

貴族院議長公爵德川家達殿

酒母、醪及麴取締法案

右可決スヘキモノナリト議決ス依テ及報告候也

明治三十七年十二月二十七日

右特別委員長

侯爵黒田 長成

貴族院議長公爵徳川家達殿

酒造組合法案

右可決スヘキモノナリト議決ス依テ及報告候也

明治三十七年十二月二十七日

右特別委員長

侯爵黒田 長成

貴族院議長公爵徳川家達殿

關稅定率法附屬輸入稅表中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決ス依テ及報告候也

明治三十七年十二月二十七日

右特別委員長

侯爵黒田 長成

貴族院議長公爵徳川家達殿

〔侯爵黒田長成君演壇ニ登ル〕

○侯爵黒田長成君 第三十一ヨリ第三十八マデノ委員會ノ經過並ニ結果ヲ御報告イタシマス、此委員會ハ六回ホド開キマシタ、十分政府ノ辯明モアリ又質問モ十分ニアリマシテ討論審議ヲ盡シマシタ末、結局全部原案ノ通り可決スベキモノト云フコトニナリマシタ、軍事費ノ供給ハ此租稅ニ依リマシテ大約八千萬圓バカリ辨スルノデアリマス、非常特別稅ニ付テ衆議院ノ修正イタシタ結果トシテ大約一千万圓バカリノ減額ガ出マシタ、ソレハ一面ニハ公債ニ依テ五百萬圓ヲ補ヒ、他ノ五百萬圓ハ此非常歲入ノ中ヨリ、酒稅カテシテ二百萬圓、雜收入二百萬圓、アトノ百萬圓ハ節約ニ依テ補フト云フコトデアリマス、此法案ニ付テノ質問ノ要點ハ重モニ織物消費稅ノ既製品ニ課稅スルカドウカト云フコトニ付テ多クアリマシタ、之ニ付テニツノ修正說ガ出マシテ、一ツノハ既製品ノ課稅ヲ全然免除シテ未製品ノ方ノ課稅ハ衆議院ノ通りニシヤウト云フノガ一ツト、今一ツハ既製品ノ稅率ヲ一割ト云フノヲ五分ニ致サウト云フ此ニツノ修正說ガアリマシタガ、審議ノ結果、五名ノ小委員ヲ委員中カラ選ビマシテ政府ニ交渉イタシマシタ、然ルニ其交渉ハ要領ヲ得ズシテ終リマシタ、所ガ其後段々審査ヲ致シテ見マシテ大藏大臣ノ辯明等ヲ承リ

マシタ所ガ餘ホド修正提出論者ト相接近シテ參ツタ、詰リ此附則ノ第八項ニ據リマスルト印紙ヲ貼用スルコトガ既製品ノ課稅上、原則トナッテ居リマスルノデ、營業者ハ頗ル困難ヲスルノデアリマス、所ガ大臣ノ説明ニ據ルト實際ハ印紙ノ貼用ノ場合ト云フコトハ極稀デアアル、サウシテ努メテ但書ノ方ヲ適用シテ賣上高ノ百分ノ十二相當スル金額ヲ一箇年以内ニ政府ニ納メルト云フ方ノ但書ノ條件ヲ適用スルコトニシヤウ、加之營業者ノ機關デアアル所ノ織物組合等ニ對シ、且又部下ノ稅務官吏ナドニ對シテモ但書ニ依ッテ行クト云フコトヲ訓令イタスデアラウ、努メテ課稅ノ苛酷ニナラヌヤウニ十分注意スルト云フ大體説明ガアリマシテ大ニ兩者ノ間ガ氷解シテ結局多數ヲ以テ衆議院ノ決議通り可決スベキモノト決シマシタ、ソレカラ第三十二ノ酒造稅法中ノ改正案デアリマスガ、是ハ衆議院デ修正ヲ致シタノハ餘リ原案デハ稅率ガ高過ギテ激變デアラウト云フノデ稅率ヲ少シ低メテ緩和ヲ致シタト云フニ過ギナイ、其他各法案ハ何ノ異議モ無ク可決イタシタ次第ゴザイマス、此段御報告ヲ致シマス、尙ホ終リニ臨ミマシテ此日程ノ第三十一ヨリ第三十八マデ讀會ヲ省略セラレムコトヲ望ミマス

〔贊成〕ト呼ブ者多シ

○議長(公爵徳川家達君) 唯今ノ黒田侯爵ノ讀會省略ノ動議ハ定規ノ贊成者ヲ得テ居ルト議長ハ認メマス

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 別ニ御異存ガゴザイマセネバ第三十一ヨリ第三十八マデ東ネテ採決イタシマス

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 然ラバ第三十一ヨリ第三十八マデ原案ハ可決セラ

ルモノト認メテ宜シウゴザイマスカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 然ラバ可決セラレマシタ、是ヨリ先ニ正親町豫算委員長ノ報告ノ濟ミマシタ明治三十八年度歲入歲出總豫算追加、之ヲ問題ニ供シマス、……御發議ガゴザイマセネバ御異議ナイモノト認メテ宜シウゴザイマスカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者多シ

○議長(公爵德川家達君) 然ラバ可決セラレマシタ

〔國務大臣伯爵桂太郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(伯爵桂太郎君) 諸君、本大臣ハ此際ニ於キマシテ一言申述ブルノ必要アリト感ジマシタ、本日ハ重大ナル諸法案竝ニ豫算案ガ當議場ニ上リマシテ唯今諸君ノ熱心ナル御贊成ヲ得マシテ悉ク可決イタシマシタ、誠ニ國家ノ爲メ御同慶ノ至リニ堪ヘマセヌ、此議場ノ有様ガ出征軍人等ノ耳ニ入りマシタナラバ益々奮ッテ國家ノ爲ニ任務ヲ精勵遂行イタスコトデアラウト信ジテ疑ヒマセヌ、一言ヲ述ベマシテ感謝ノ意ヲ表シマス

○議長(公爵德川家達君) 是ヨリ議事日程ノ第一ニ戻リマス、日程第一、明治三十五年法律第四十九號中改正法律案、第一讀會

明治三十五年法律第四十九號中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治三十七年十二月二十四日

衆議院議長松田正久

貴族院議長公爵德川家達殿

明治三十五年法律第四十九號中改正法律案

明治三十五年法律第四十九號中左ノ通改正ス

第三條 第一回國勢調査ヲ行フヘキ時期ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

○議長(公爵德川家達君) 御發議ガゴザイマセネバ次ノ日程ニ移リマス、特別委員ノ選舉、此選舉ハ例ニ依リマシテ議長ニ御任セニナリマスカ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 然ラバ議長ノ選定ニ致シマス、次ハ議事日程第三

○議長(公爵德川家達君) 然ラバ議長ノ選定ニ致シマス、次ハ議事日程第三

古社寺保存法第十六條ニ依リ國庫ヨリ支出スヘキ金額ニ關スル法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治三十七年十二月二十四日

衆議院議長松田正久

貴族院議長公爵德川家達殿

古社寺保存法第十六條ニ依リ國庫ヨリ支出スヘキ金額ニ關スル法律案

古社寺保存法第十六條ニ依リ毎年國庫ヨリ支出スヘキ金額ハ臨時事件ノ繫屬スル年度中之ヲ十五萬圓以下ニ下スコトヲ得

○議長(公爵德川家達君) 是モ御異議ゴザイマセヌケレバ直チニ委員ノ選舉

ニ移リマス

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 是モ議長指名デ宜シウゴザイマスカ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 然ラバ議長ガ指名イタシマス、次ハ議事日程第五

郵便貯金法案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

候也

明治三十七年十二月二十四日

衆議院議長松田正久

貴族院議長公爵德川家達殿

郵便貯金法

第一條 郵便貯金ハ政府之ヲ管掌ス

第二條 郵便貯金ノ預入ハ郵便貯金通帳ニ依リ其ノ拂戻ハ拂戻證書ニ依リ之ヲ爲ス但シ命令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三條 一人ノ郵便貯金制限額ハ左ノ如シ

一 一度ノ預入額 十錢以上

二 貯金總額 千圓以下

預入金ノ端數ハ厘位ヲ限トス

第四條 左ニ掲グル預入金ニ付テハ前條第一項第二號ノ制限ヲ適用セス

一 公共團體、社寺、學校又ハ營利ヲ目的トセサル法人若ハ團體ノ預入金

二 命令ノ規定ニ依ル共同貯金ノ預入金

三 産業組合ノ預入金

四 振替計算ノ爲ニスル預入金

第五條 郵便貯金通帳ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除ク外一人一冊ヲ限トス

前項ノ規定ニ違反シ二冊以上ノ通帳ヲ以テ貯金ノ預入ヲ爲シタル者アルトキハ最初ノ通帳、通帳ノ日附同一ナルトキハ貯金ノ最多額ナルモノニ

記入シタル貯金ノ外利子ヲ付セス

前項ニ依リ利子ヲ付スヘカラサル貯金ニ付既ニ拂戻シタル利子アルトキ

ハ現ニ存在スル貯金ヨリ之ヲ控除シ又ハ別ニ之ヲ追徴ス

第六條 郵便貯金額第三條第一項第二號ノ制限ヲ超過シタル場合ニ於テ郵便貯金預ケ人之ヲ其ノ制限以内ニ減額セサルトキハ郵便官署ハ其ノ制限以内ニ減額スルニ必要ナル限度ニ於テ貯金ノ一部ヲ以テ國債證券ヲ購入シ之ヲ保管スヘシ

第七條 郵便切手及支拂期ノ開始セル證券ハ命令ノ定ムル所ニ依リ郵便貯金ニ預入スルコトヲ得

第八條 郵便貯金ノ利子ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 郵便官署ハ郵便貯金預ケ人ノ請求ニ因リ其ノ貯金ノ一部ヲ以テ國債證券其ノ他ノ證券ヲ購入保管シ又ハ之ヲ賣却スルコトヲ得其ノ證券ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 郵便貯金拂出ニ關スル證書ノ有効期間ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條 郵便貯金ニ關シ無能力者ノ郵便官署ニ對シテ爲シタル行爲ハ能力者ノ爲シタルモノト看做ス

第十二條 郵便貯金及保管ニ係ル證券ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外之ヲ讓渡スコトヲ得ス

第十三條 成規ノ手續ヲ經テ郵便貯金ヲ拂出シ又ハ保管ニ係ル證券ヲ交付シタルトキハ正當ノ拂出又ハ交付ヲ爲シタルモノト看做ス

第十四條 郵便官署ハ郵便貯金ニ關スル取扱ノ遅延ニ因リ生シタル損害ニ付賠償ノ責ニ任セス

第十五條 郵便官署ハ郵便貯金預ケ人ノ眞僞ヲ調査スル爲預ケ人ヲシテ必要ナル證明ヲ爲サシムルコトヲ得

第十六條 郵便官署ハ必要ナル場合ニ於テ郵便貯金通帳ヲ檢閲スルコトヲ得

第十七條 郵便貯金ニ關スル書類ニハ印紙稅ヲ課セス

第十八條 十年間郵便貯金ノ預入及拂出ナク且利子記入又ハ檢閲ノ爲ニスル通帳ノ提出ナキ場合ニ於テハ郵便官署ハ其ノ預ケ人ニ對シ郵便貯金通帳ノ提出又ハ預入金ノ處分ヲ爲スヘキ旨ヲ催告シ其ノ催告ノ日ヨリ六十日內ニ通帳ヲ提出セス又ハ預入金ノ處分ヲ申出サルトキハ其ノ郵便貯金

及保管ニ係ル證券ハ國庫ノ所有ニ歸ス

郵便貯金拂出ニ關スル證書ノ有効期間滿了ノ日ヨリ三年間再度證書交付又ハ拂出金戻入ノ請求ナキ場合ニ於テハ其ノ拂出金ハ國庫ノ所有ニ歸ス

一定ノ期間拂戻ヲ爲ササル條件ヲ以テ預入シタル郵便貯金ニ付テハ其ノ期間ハ第一項ノ期間ニ算入セス

附則

第十九條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

郵便貯金條例ハ之ヲ廢止ス

第二十條 本法施行前ニ預入シタル郵便貯金ニ關シテハ本法ノ規定ヲ適用ス

本法施行前又ハ本法施行後一年內ニ第十八條第一項ノ期間ヲ經過シ又ハ經過スヘキ郵便貯金ニ付テハ本法施行ノ際郵便官署ニ於テ其ノ預ケ人ニ對シ郵便貯金通帳ノ提出又ハ預入金ノ處分ヲ爲スヘキ旨ヲ催告スヘシ其ノ催告ノ日ヨリ一年內ニ通帳ヲ提出セス又ハ預入金ノ處分ヲ申出サルトキハ更ニ其ノ旨ヲ公告シ尙一年內ニ之ニ應スル者ナキトキハ其ノ貯金及保管ニ係ル國債證券ハ國庫ノ所有ニ歸ス

本法施行前發行シタル拂戻證書ノ有効期間ハ本法施行ノ日ヨリ六十日トス

○議長(公爵徳川家達君) 是モ直チニ委員選舉ニ移ツテ宜シウゴザイマスカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 是モ議長指名ニ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 次ハ議事日程第七

實用新案法案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治三十七年十二月二十四日

衆議院議長松田正久

貴族院議長公爵徳川家達殿

實用新案法案

第一章 總則

第一條 工業上ノ物品ニ關シ其ノ形狀、構造又ハ組合ハセニ係リ實用アル新規ノ考案ヲ爲シタル者又ハ之ヲ承繼シタル者ハ本法ニ依リ實用新案ノ登録ヲ受クルコトヲ得

左ノ各號ニ該當セサルモノハ新規ナルモノト看做ス

一 登録出願前同一又ハ類似ノ物品ニ關シ帝國内ニ於テ公ニ用セラレタルモノ又ハ之ニ類似スルモノ

二 登録出願前同一又ハ類似ノ物品ニ關シ容易ニ應用スルコトヲ得ヘキ程度ニ於テ公刊物ニ記載セラレタルモノ又ハ之ニ類似スルモノ

第二條 左ニ掲クル實用新案ハ之ヲ登録セス

一 菊花御紋章又ハ之ニ類似スルモノ

二 秩序若ハ風俗ヲ紊リ又ハ衛生ヲ害スルノ虞アルモノ

第三條 實用新案ニ關シ出願若ハ請求ヲ爲サムトスル者又ハ實用新案權者ニシテ帝國内ニ住所ヲ有セザルトキハ帝國内ニ住所ヲ有スル者ニ就キ代理人ヲ定メ特許局長ニ届出ツヘシ

前項ノ代理人ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ爲スヘキ手續及實用新案ニ關スル民事訴訟私訴及告訴ニ付本人ヲ代表スルモノトス

第四條 特許局長ハ實用新案ニ關スル代理人ヲ適當ナラスト認ムルトキハ其ノ改任ヲ命スルコトヲ得

第五條 特許代理業者ニ非サレハ實用新案ニ關スル代理ヲ常業トスルコトヲ得ス

第六條 實用新案ニ關シ出願又ハ請求ヲ爲シタル者本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ特許局長又ハ審判長ノ定ムル期間内ニ成規又ハ指定ノ手續ヲ爲サザルトキハ特許局長又ハ審判長ハ其ノ出願又ハ請求ヲ無効ト爲スコトヲ得

第七條 本法ニ依リ特許局ニ於テ爲ス書類ノ送付ハ書留郵便又ハ特許局ノ使丁ヲ以テ之ヲ爲ス

第八條 實用新案ニ關シ條約ニ別段ノ規定アルトキハ其ノ規定ニ從フ

第二章 實用新案權

第九條 實用新案權ハ實用新案ノ登録ニ依リ發生ス

實用新案權者ハ其ノ登録ヲ受ケタル物品ヲ製作、販賣、擴布又ハ使用スル權利ヲ專有ス

第十條 實用新案權ノ存續期間ハ三箇年トス

前項ノ期間ハ三箇年間之ヲ延長スルコトヲ得

第十一條 實用新案權ハ制限ヲ付シ又ハ付セスシテ之ヲ讓渡スルコトヲ得

第十二條 實用新案權存續期間ノ延長ハ特許局長ニ請求シテ登録ヲ受クルニ非サレハ其ノ効ヲ生セス

實用新案權ノ移轉又ハ質入ハ特許局長ニ請求シテ登録ヲ受クルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第十三條 無効ノ審判確定シタルトキハ特許局長ハ實用新案ノ登録ヲ取消スヘシ此ノ場合ニ於テハ實用新案權ハ初メヨリ存立セザルモノト看做ス

實用新案權者正當ノ事由ナクシテ六箇月以上第三條ノ手續ヲ怠リタルトキハ特許局長ハ實用新案ノ登録ヲ取消スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ實用新案權ハ以後效力ヲ失フ

第十四條 登録實用新案カ其ノ出願前ノ出願ニ係ル特許發明、登録意匠又ハ登録實用新案ヲ使用スルニ非サレハ實施スルコト能ハザルトキハ其ノ發明特許權者、意匠權者又ハ實用新案權者ノ許諾ヲ得タル場合ニ限り之ヲ實施スルコトヲ得

特許發明又ハ登録意匠カ其ノ出願前ノ出願ニ係ル登録實用新案ヲ使用スルニ非サレハ實施スルコト能ハザルトキハ實用新案權者ノ許諾ヲ得タル場合ニ限り之ヲ實施スルコトヲ得

第十五條 實用新案權者ハ制限ヲ付シ又ハ付セスシテ登録實用新案ノ實施ヲ他人ニ許諾スルコトヲ得

實用新案實施ノ許諾ヲ得タル者ニシテ特許局長ニ請求シ其ノ登録ヲ受クルトキハ爾後其ノ實用新案權ヲ取得シタル者又ハ其ノ實用新案權ニ付質權ヲ取得シタル者ニ對シテモ其ノ效力ヲ生ス

第十六條 實用新案權者又ハ實用新案實施ノ許諾ヲ得タル者ハ其ノ登録實用新案ニ係ル物品ニ登録標記ヲ附スヘシ物品ノ性質ニ依リ之ニ標記ヲ附スルコト能ハザルトキハ其ノ包裝上ニ之ヲ附スヘシ

標記ヲ附スルコトヲ怠リタル爲登録實用新案品ナルコトヲ知ラスシテ其ノ權利ヲ侵害シタル者ニ對シテハ要償ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス

第三章 出願、審査及登録

第十七條 實用新案ノ登録ヲ受ケムトスル者ハ一實用新案ニ付一物品毎ニ願書ニ圖面ヲ添ヘ特許局長ニ差出スヘシ

特許局長ハ必要ト認ムルトキハ出願人ニ解説書、圖面、見本又ハ雛形ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第十八條 同一又ハ類似ノ實用新案ニ付テハ最先ニ出願ヲ爲シタル者ニ非

サレハ登録ヲ受クルノ權利ヲ有セス但シ同日ノ出願ニ係ルトキハ各出願者協議シテ權利者ヲ定ムヘシ協議調ハサルトキハ共ニ之ヲ登録セス

第十九條 發明特許又ハ意匠登録ノ出願ヲ爲シ特許又ハ登録スヘカラスト

ノ査定ヲ受ケタル者其ノ最初ノ査定ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内

ニ其ノ發明又ハ意匠ニ係ル物品ニ付實用新案ノ登録ヲ出願シタルトキハ

其ノ發明特許又ハ意匠登録ヲ出願シタル日ニ於テ出願シタルモノト看做

ス

第二十條 政府又ハ道府縣ノ開設シタル博覽會又ハ共進會ニ出品スル物品

ニ付其ノ出品前豫メ之ヲ特許局長ニ届出テ博覽會又ハ共進會ニ於テ其ノ

物品ヲ受領セシ日ヨリ六箇月以内ニ其ノ實用新案ノ登録ヲ出願スルトキ

ハ先ノ届出ノ日ニ於テ登録ヲ出願シタルモノト看做ス

工業所有權ニ付帝國ト相互保護ニ關スル條約アル國ニ於テ萬國博覽會ノ

開設アルニ當リ其ノ國ニ於テ出品ニ對シ與ヘタル登録願保護ノ期間ハ帝

國內ニ於テモ有效トス

第二十一條 實用新案登録ノ出願アリタルトキハ特許局長ハ特許局審査官

ナシテ之ヲ審査セシムヘシ

第二十二條 特許局審査官ニ於テ査定ヲ爲シタルトキハ特許局長ハ其ノ査

定ヲ出願人ニ送付スヘシ

第二十三條 特許局審査官ハ第二條及第十八條ノ規定ニ該當スルヤ否ニ付

審査スヘシ但シ第一條ノ規定ニ該當セサルコトヲ發見シタルトキハ之ヲ

理由トシテ登録拒絕ノ査定ヲ爲スヘシ

第二十四條 登録拒絕ノ査定ヲ受ケタル者之ニ不服ナルトキハ其ノ送付ヲ

受ケタル日ヨリ三十日以内ニ特許局ニ再審査ヲ請求スルトコトヲ得

前項ノ請求アリタルトキハ特許局長ハ前審査ニ關與セサル特許局審査官

ナシテ之ヲ審査セシムヘシ

錄證ヲ下付スヘシ

第二十七條 實用新案ノ登録ヲ請求スル者ハ一實用新案ニ付一物品毎ニ登

録料金十五圓ヲ納ムヘシ

實用新案權存續期間ノ延長ヲ請求スル者ハ一實用新案ニ付一物品毎ニ登

録料金三十圓ヲ納ムヘシ

第二十八條 實用新案ニ關スル登録ハ實用新案原簿ニ之ヲ爲スヘシ

第二十九條 登録實用新案ニ關スル書類ノ謄本、登録證ノ複本、證明、圖

面ノ調製又ハ書類ノ閱覽ヲ要スル者ハ其ノ事由ヲ疏明シ之ヲ特許局ニ請

求スルトコトヲ得但シ秘密ヲ要スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第三十條 特許局ハ實用新案公報ヲ發行スヘシ

實用新案公報ニハ登録實用新案ニ關スル重要ナル事項ヲ掲載スヘシ

第四章 審判及出訴

第三十一條 登録實用新案カ第一條第二條又ハ第十八條ノ規定ニ違フモノ

ナルコトヲ發見シタル者ハ特許局ニ無効ノ審判ヲ請求スルトコトヲ得

第三十二條 登録實用新案カ互ニ撞著スルヤ否又ハ登録實用新案ト實用新

案ノ登録ヲ受ケサル物品ト撞著スルヤ否ニ付利害關係人ハ特許局ニ撞著

ノ審判ヲ請求スルトコトヲ得

第三十三條 審判ノ請求ハ審判請求書ヲ差出シテ之ヲ爲スヘシ審判請求書

ニハ一定ノ申立及理由ヲ記載スルトコトヲ要ス

第三十四條 特許局ニ於テ審判請求書ヲ受理シタルトキハ其ノ副本ヲ被請

求人ニ送付シ相當ノ期間ヲ指定シ答辯書ヲ差出サシムヘシ

特許局ハ必要ト認ムルトキハ相當ノ期間ヲ指定シ請求人又ハ被請求人ヲ

シテ辯駁書又ハ答辯書ヲ差出サシムルトコトヲ得

第三十五條 審判ハ審判官三人又ハ五人ノ合議ニ依リ之ヲ行ヒ審判官中一

人ヲ審判長トス

第三十六條 審判長ハ職權又ハ當事者ノ申立ニ依リ口頭審理ヲ爲スコトヲ

得

口頭審理ハ之ヲ公開ス但シ安寧秩序又ハ風俗ヲ紊ルノ虞アルトキハ此ノ

限ニ在ラス

第三十七條 審判請求人又ハ被請求人成規又ハ指定ノ期間内ニ答辯書又ハ

辯駁書ヲ差出サス其ノ他指定ノ手續ヲ爲サス又ハ口頭審理期日ニ出頭セ

サルトキハ審判長ハ直ニ審判ヲ終結スルコトヲ得

第三十八條 審判ニ關シ必要アルトキハ特許局ハ職權又ハ當事者ノ申立ニ依リ證據調ヲ爲シ且當事者ノ申立サル事實ヲ斟酌スルコトヲ得

前項證據調ハ區裁判所又ハ臺灣地方法院其ノ他裁判事務ヲ行フ官廳ニ之ヲ囑託スルコトヲ得

第三十九條 證據調ニ付テハ民事訴訟法中證據調ニ關スル規定ヲ準用ス但シ特許局ニ於テ爲ス證據調ニ關シテハ罰金ノ言渡ヲ爲シ又ハ勾引ヲ命スルコトヲ得

第四十條 審判ニ關スル費用ノ負擔ハ終局審決ニ依リ之ヲ定ム

費用ノ負擔ニ付テハ民事訴訟法中訴訟費用ニ關スル規定ヲ準用ス

第四十一條 審決アリタルトキハ特許局長ハ之ヲ當事者ニ送付スヘシ

第四十二條 終局審決ニ對シ不服アル者ハ其ノ審決カ法律ヲ適用セス又ハ不當ニ適用シタルコトヲ理由トスルトキニ限り審決ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ大審院ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ出訴及裁判ニ付テハ民事訴訟ノ上告及其ノ裁判ニ關スル規定ヲ準用ス

第四十三條 大審院ニ於テ出訴ヲ理由アリトスルトキハ原審決ヲ破毀シ更ニ審判ヲ爲サシムル爲事件ヲ特許局ニ差戻スヘシ

大審院ニ於テ裁判ヲ爲スニ當リ法律ノ點ニ付表シタル意見ハ其ノ事件ニ關シ特許局ヲ羈束スルモノトス

第四十四條 民事又ハ刑事ノ訴訟ニ付實用新案權ニ關シ争アル場合ニ於テ裁判所ハ第三十一條又ハ第三十二條ノ請求ニ依ル審決ノ確定ニ至ル迄其ノ訴訟ヲ中止スルコトヲ得

第四十五條 審判及出訴ノ費用額ニ關シテハ民事訴訟費用法ヲ準用シ特許局長請求ニ依リ之ヲ決定ス

前項ノ決定ハ強制執行ニ關シテハ公證人ノ作リタル債務名義ト看做ス但シ其ノ執行力アル正本ハ特許局官吏之ヲ付與ス

第五章 罰則

第四十六條 實用新案ノ登録ヲ受ケタル物品ヲ偽造、模造シ又ハ偽造品、模造品ヲ販賣、擴布若ハ使用シタル者ハ十五日以上一年以下ノ重禁錮又ハ十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

實用新案ノ登録ヲ受ケタル物品ト同一又ハ類似ノモノナルコトヲ知り之ヲ外國ヨリ輸入シタル者ハ罰前項ニ同シ

本條ノ犯罪ハ實用新案權者ノ告訴ヲ待テ其ノ罪ヲ論ス

第四十七條 前條ノ場合ニ於テハ其ノ偽造品、模造品、輸入品ハ之ヲ沒收シ實用新案權者ニ給付ス

第四十八條 詐偽ノ所爲ヲ以テ實用新案ノ登録ヲ受ケタル者又ハ實用新案ノ登録ヲ受ケサル物品又ハ其ノ包装上ニ實用新案登録ノ標記ヲ附シ若ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者又ハ情ヲ知リテ其ノ物品ヲ販賣シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

實用新案ノ登録ヲ受ケサル物品ヲ販賣又ハ擴布スル爲廣告、看板、引札等ニ於テ實用新案登録品タルニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者ハ罰前項ニ同シ

第四十九條 證人、鑑定人又ハ通事ニシテ特許局又ハ其ノ囑託ヲ受ケタル區裁判所又ハ臺灣地方法院其ノ他裁判事務ヲ行フ官廳ニ對シ偽證又ハ詐偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

賄賂其ノ他ノ方法ヲ以テ人ニ囑託シ偽證又ハ詐偽ノ陳述ヲ爲サシメタル者ハ罰前項ニ同シ

前二項ノ罪ヲ犯シタル者其ノ事件ノ査定又ハ審決ニ至ラサル前特許局又ハ其ノ囑託ヲ受ケタル區裁判所又ハ臺灣地方法院其ノ他裁判事務ヲ行フ官廳ニ自首シタルトキハ本刑ヲ免ス

第五十條 特許局ヨリ證人、鑑定人又ハ通事トシテ呼出サレタル者正當ノ理由ナクシテ呼出ニ應セス又ハ其ノ義務ヲ盡ササルトキハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第五十一條 本法ハ明治三十八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第五十二條 左ノ場合ニ於テハ發明特許又ハ意匠登録ノ出願ヲ爲シタル日ヲ以テ第十四條及第十八條ノ適用上實用新案ノ登録出願ノ日ト看做ス

一 本法施行前一箇年以内ニ於テ發明特許又ハ意匠登録ヲ出願シ本法施行後三十日以内ニ其ノ發明又ハ意匠ニ係ル物品ニ付實用新案ノ登録ヲ出願シタルトキ

二 本法施行前發明特許又ハ意匠登錄ヲ出願シ本法施行後ニ於テ特許スヘカラス又ハ登錄スヘカラストノ査定ヲ受ケタル者其ノ査定ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ其ノ發明又ハ意匠ニ係ル物品ニ付實用新案ノ登錄ヲ出願シタルトキ

○議長(公爵徳川家達君) 別ニ御發議ガゴザイマセネバ委員ノ選舉ニ移リマ

ス

○議長(公爵徳川家達君) 議長指名デ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 次ハ第九

蠶病豫防法案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治三十七年十二月二十四日

衆議院議長松田正久

貴族院議長公爵徳川家達殿

蠶病豫防法

第一條 本法ニ於テ蠶病ト稱スルハ微粒子病、軟化病、硬化病、膿病及嚙蛆病ヲ謂フ

第二條 本法ニ於テ蠶種製造者ト稱スルハ他人ニ讓渡スノ目的ヲ以テ蠶種ヲ製造スル者ヲ謂フ

蠶種製造者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ蠶種製造ノ届出ヲ爲スヘシ此ノ届出ヲ爲ササル者ハ蠶種製造者ト看做サス

第三條 蠶種製造者、養蠶者、生絲製造者又ハ生繭ノ賣買若ハ殺蛹乾繭ニ從事スル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ病蠶、嚙蛆及其ノ蛹ヲ滅殺シ其ノ他蠶病豫防ノ爲必要ナル施設ヲ爲スヘシ

主務大臣ハ學術研究ノ爲養蠶、生絲製造又ハ殺蛹乾繭ヲ爲ス者ニ對シ前項ノ規定ヲ適用セサルコトヲ得

第四條 蠶種製造者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ蠶室及蠶具ノ消毒ヲ行フヘシ

第五條 蠶種製造者ハ検査合格ノ原種ヨリ産出シタル繭ヲ用ウルニ非サレハ蠶種ヲ製造スルコトヲ得ス

第六條 蠶種製造者ハ左ニ掲クル繭ヲ以テ蠶種ヲ製造スルコトヲ得ス

一 二蠶以上合同シテ作りタル繭

二 繭層片薄ナル繭又ハ形狀ヲ失スル繭

三 繭層ノ量繭ノ全量百ニ對シ一化性ニ在リテ八十、二化性ニ在リテハ

七、多化性ニ在リテハ六ニ達セサルモノ

四 蠶兒ノ發育不良ニシテ收繭ノ量著シク減少シタルモノ

五 蠶種製造者ニ非サル者ノ飼育シタル蠶兒ヨリ産出シタル繭

第七條 蠶種製造者ハ原種ヲ複製ニスヘシ

第八條 蠶種製造者ハ蠶種製造用ノ蠶兒ト同一ノ飼育時期ニ於テ製絲用ノ蠶兒ヲ飼育スルコトヲ得ス

蠶種製造者ハ行政廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ蠶兒ヲ讓渡シ又ハ讓受クルコトヲ得ス

第九條 蠶種製造者ハ同一飼育時期ニ於テ他ノ蠶種製造者又ハ養蠶者ト同一ノ建物又ハ蠶具ヲ共用スルコトヲ得ス

第十條 蠶種製造者ハ收繭後ニ於テ掃殼及繭、産卵後ニ於テ原種ニ在リテハ出殼繭、母蛾及卵、越年ズル製絲用種ニ在リテハ出殼繭及卵、越年セサル製絲用種ニ在リテハ出殼繭ノ検査ヲ受クヘシ但シ越年セサル製絲用種ニ在リテモ卵ノ検査ヲ受ケシムルコトヲ得

第十一條 主務大臣ハ必要ト認ムルトキハ本法中蠶種製造者ニ關スル規定ノ全部又ハ一部ヲ自家用又ハ學術研究ノ爲蠶種ヲ製造スル者ニ適用スルコトヲ得

第十二條 行政廳ハ第十條ノ検査ニ合格シタル蠶種ニ證印ヲ附シ不合格ノ蠶種ヲ燒棄スヘシ

第十三條 検査合格ノ證印ナキ蠶種及其ノ蠶種ヨリ産出シタル蠶兒ハ之ヲ讓渡スコトヲ得ス但シ學術研究ノ爲製造シタル蠶種ニシテ命令ノ定ムル所ニ依リ検査合格ト看做サレタルモノ及其ノ蠶種ヨリ産出シタル蠶兒ハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 本法ヲ施行セサル地又ハ外國ニ於テ製造シタル蠶種ハ學術研究ノ爲主務大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外之ヲ移入又ハ輸入スルコトヲ得ス

第十五條 錯誤ニ因リ又ハ本法ノ規定ニ違反シテ爲シタル検査合格ノ證印

ハ行政廳ニ於テ之ヲ取消スヘシ

第十六條 當該吏員ハ蠶病豫防ニ關スル狀況ヲ臨檢シ検査ノ爲無償ニテ物品ヲ收去シ其ノ他必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

前項ノ吏員ハ其ノ證票ヲ携帶スヘシ

第十七條 當該吏員ハ自己、同一戶籍内ニ在ル者又ハ同居者ニ對シ前條ノ臨檢及第十條ノ検査ヲ行フコトヲ得ス

第十八條 蠶病豫防事務ノ費用ハ府縣ノ負擔トス

沖繩縣ニ於テハ國庫ノ負擔トス

第十九條 府縣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ蠶種検査ニ關シ手数料ヲ徵收スルコトヲ得

第二十條 府縣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ蠶病豫防ノ爲必要ナル吏員ヲ置クヘシ

第二十一條 詐偽ノ所爲ヲ以テ第十條ノ検査ヲ受ケタル者又ハ第八條第二項、第十三條若ハ第十四條ノ規定ニ違背シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル蠶種、蠶兒及繭ハ之ヲ沒收シ既ニ讓渡シタルトキハ其ノ代金ヲ追徵ス

第二十二條 當該吏員本法ノ執行ニ關シ不正ノ所爲アリタルトキハ一年以下ノ重禁錮ニ處シ四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第二十三條 第三條第一項、第四條乃至第六條、第八條第一項、第九條又ハ第十七條ノ規定ニ違背シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル當該吏員ノ指示ニ從ハス若ハ其ノ職務執行ヲ妨ケタル者ハ罰前項ニ同シ其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第二十四條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違背シタル者ニハ刑法ノ減輕、再犯加重及數罪俱發ノ例ヲ用テス

第二十五條 當業者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ當業者ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十六條 當業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者

ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違背シタルトキハ自己ノ指揮ニ出サルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第二十七條 前二條ノ場合ニ於テハ禁錮又ハ拘留ノ刑ニ處スルコトヲ得ス

第二十八條 明治三十三年法律第五十二號ノ規定ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ犯罪ニ之ヲ準用ス

附則 第二十九條 本法ハ明治三十八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

蠶種検査法ハ之ヲ廢止ス

第三十條 本法ハ命令ヲ以テ指定スル地ニ之ヲ施行セス

第三十一條 本法中府縣ニ關スル規定ハ北海道ニ於テハ之ヲ北海道地方費ニ準用ス

○議長(公爵徳川家達君) 是モ別ニ御異議ガ無ケレバ直ニ委員ノ選舉ニ移リマス

○議長(公爵徳川家達君) 是モ議長指名デ宜シウゴザイマスカ
〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ
〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 便宜上、次ハ第十一ヨリ第二十一マデ
煙草專賣局及製鐵所据置運轉資本補足ニ關スル法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也
明治三十七年十二月二十四日 衆議院議長松田正久

貴族院議長公爵徳川家達殿

煙草專賣局及製鐵所据置運轉資本補足ニ關スル法律案
第一條 煙草專賣局及製鐵所ノ据置運轉資本ニ不足ヲ生シタルトキハ大藏大臣ハ融通證券ノ發行ニ依リ一時之ヲ補足スルコトヲ得但シ其ノ金額ハ煙草專賣局ニ在リテハ七百萬圓製鐵所ニ在リテハ五百五十萬圓ヲ超過スルコトヲ得ス

第二條 前條ノ融通證券ハ遅クモ翌年度ニ於テ之ヲ償還スヘシ

第三條 本法ニ依リテ發行スル融通證券ニ關シテハ本法ニ規定スルモノノ外大藏省證券條例ヲ準用ス但シ大藏省證券條例第四條第一項ハ此ノ限ニ在ラス

海軍工廠資金會計法案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治三十七年十二月二十四日

衆議院議長松田正久

貴族院議長公爵徳川家達殿

海軍工廠資金會計法

第一條 海軍造船及造兵ノ工廠ニ於ケル材料物品貯蓄ノ資本トシテ海軍工廠資金ヲ置キ特別ノ會計ヲ立テシム

第二條 海軍工廠資金ハ明治三十八年三月三十一日現在スル所ノ海軍造船材料資金及海軍造兵材料資金ヲ以テ之ニ充テ毎年第六條ノ過剰金ニ相當スル金額ヲ加ヘ漸次増加シテ九百五十萬圓トス

第三條 海軍工廠資金會計ニ屬スル材料物品ヲ使用スルトキハ海軍省所管經費ヲ以テ之ヲ購入スヘシ此ノ場合ニ於テハ前金拂ヲ爲スコトヲ得

第四條 海軍工廠資金ヲ以テ貯蓄シタル材料物品ノ損滅ハ豫メ歩合ヲ定メテ材料物品ノ原價ニ加算スヘシ

第五條 海軍工廠ノ事業ニ使用シタル材料ノ殘材殘屑艦艇取外シ物品廢船舟及廢兵器ニシテ更ニ材料トシテ使用シ得ヘキモノハ海軍工廠資金會計ノ材料ニ組入ルルコトヲ得

第六條 每會計年度ニ於テ海軍工廠資金特別會計ノ決算上該資金額ニ過剰ヲ生スルトキハ其ノ過剰金ヲ同年度一般ノ歳入ニ編入スヘシ

第七條 政府ハ毎年海軍工廠資金特別會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト俱ニ帝國議會ニ提出スヘシ

第八條 海軍工廠資金特別會計ノ收入支出ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

第九條 第二條ハ海軍造船材料資金會計法第六條及海軍造兵材料資金會計

法第六條ノ過剰金ニ相當スル金額ニシテ未タ資金ニ増加ヲ了セサルモノニモ之ヲ適用ス

第十條 本法ハ明治三十八年度ヨリ之ヲ施行ス

海軍造船材料資金會計法及海軍造兵材料資金會計法ハ之ヲ廢止ス

北海道官設鐵道用品資金會計法廢止法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治三十七年十二月二十四日

衆議院議長松田正久

貴族院議長公爵徳川家達殿

北海道官設鐵道用品資金會計法廢止法律案

北海道官設鐵道用品資金會計法ハ明治三十七年度限り之ヲ廢止ス

國債證券及貯蓄債券ノ利子所得稅免除ニ關スル法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治三十七年十二月二十四日

衆議院議長松田正久

貴族院議長公爵徳川家達殿

國債證券及貯蓄債券ノ利子所得稅免除ニ關スル法律案

軍備補充ノ爲及臨時事件費支辨ノ爲明治三十七年以降政府ノ發行スル國債證券ノ利子及貯蓄債券法ニ依リ發行スル貯蓄債券ノ利子ハ所得稅ヲ免除ス但シ既納ノ税金ハ之ヲ還付セス

國債證券價格計算ニ關スル法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治三十七年十二月二十四日

衆議院議長松田正久

貴族院議長公爵徳川家達殿

國債證券價格計算ニ關スル法律案

軍備補充ノ爲及臨時事件費支辨ノ爲發行スル國債證券ニ付テハ其ノ最低發行價格ヲ以テ債權ノ價格トシテ計算スルコトヲ得

附則

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

在外國帝國專管居留地特別會計法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治三十七年十二月二十四日

衆議院議長松田正久

貴族院議長公爵徳川家達殿

在外國帝國專管居留地特別會計法中改正法律案

在外國帝國專管居留地特別會計法中左ノ通改正ス

第三條中「百萬圓」ヲ「百五十萬圓」ニ改ム

○議長(公爵徳川家達君) 直ニ委員ニ付託シテ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 此選舉ハ議長ニ御任セニナリマスカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) ソレカラ落シマシタガ、此委員ノ數ハ皆通常ノ九名デ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) ソレカラ伺ヒマスノヲ落シマシタガ、議事日程ノ第十七、第十九ハ同一委員ニ付託シテ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 然ラバ同一委員ニ付託イタシマス、次ハ議事日程第三十九、商業會議所法中改正法律案、第一讀會ノ續、特別委員長報告

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

商業會議所法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決ス依テ及報告候也

明治三十七年十二月二十七日

右特別委員長

子爵青山 幸宜

〔子爵青山幸宜君演壇ニ登ル〕

貴族院議長公爵徳川家達殿

○子爵青山幸宜君 委員會ノ經過及ビ結果ヲ御報告イタシマス、正副委員長ノ選舉ハ昨日選舉ヲ致シマシテ直チニ委員會ヲ開キマシタ、此商業會議所法中改正ノ理由ヲ簡單ニ申上ゲマスレバ現行法ヲハ會員ノ任期ハ四箇年トシテゴザイマスノヲ二箇年ノ半數改選ト云フコトナ...

此度ハ半數改選ト云フコトナ廢メマシテ、四箇年繼續ヲスルト云フノガ重モナル趣意デゴザイマス、ソレデ之ニ就キマシテハ委員中カラ異議モ出マシタガ、詰リ兩名ノ反對デゴザイマシテ、三名ノ贊成者デ、一名ノ多數デ之ヲ可決セラレタノデゴザイマス、此案ニ就テ政府委員ニモ質問イタシマシタガ、政府委員モ敢テ之ニハ反對ハセヌト云フコトデゴザイマシタ、ソレデ詰リ此案ハ委員會ニ於テハ御報告ヲ致シマシタ通り可決ニナリマシタ譯デゴザイマスカラ、ドウカ委員會ノ

可決通り御贊成アランコトヲ希望イタシマス、此段委員會ノ御報告イタシマス
○渡邊福三郎君 唯今特別委員長青山子爵ヨリ御報告ガゴザイマシタガ、是ハ讀會ヲ省略セラレテ直チニ決議アランコトヲ希望イタシマス
〔贊成〕ト呼ブ者多シ
○森山茂君 是ハ矢ッ張り普通ノ、日ヲ改メテ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス
〔贊成〕ト呼ブ者アリ
○議長(公爵徳川家達君) 森山君ハ.....
○森山茂君 直チニ二讀會ヲ開クコトニハ贊成セヌデス
○議長(公爵徳川家達君) マダ二讀會ニ移ルヤ否ヤノ決ヲ採リマセヌカラ、ドウゾ其積リデ.....唯今渡邊君ノ讀會省略ノ動議ハ未ダ成規ノ贊成者ヲ得テ居ラヌト議長ハ認メマス
〔贊成〕ト呼ブ者アリ
○議長(公爵徳川家達君) 然ラバ成規ノ贊成ガアッタト認メマス、渡邊君ノ讀會省略ノ動議ニ贊成、諸君ハ起立ヲ請ヒマス
起立者.....
〔少數〕多數〔ト呼ブ者アリ〕
○議長(公爵徳川家達君) モウ少シ御立チヲ願ヒマス、三分ノ二以上無イト認メマス、此本案ヲ二讀會ニ移スベキヤ否ヤノ決ヲ採リマス、第二讀會ニ移スベントスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス
起立者.....
○議長(公爵徳川家達君) 少々明瞭デアリマセヌカラ反對ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス
起立者.....
〔多數〕ト呼ブ者アリ〔少數〕ト呼ブ者アリ
○議長(公爵徳川家達君) 二讀會ニ移スベントスル方ガ少數デアリマス、ソレ故ニ否決セラレマシタ、先ニ御委託ニ相成リタシタ特別委員ノ氏名ヲ御報告ニ及ビマスカラ暫ク御靜肅ニ願ヒマス
〔仙石書記官朗讀〕
明治三十五年法律第四十九號中改正法律案特別委員

伯爵柳澤 保惠君 子爵立花 種恭君 子爵竹内 惟忠君
 男爵平野 長祥君 男爵德川 厚君 石井省一郎君
 宮島誠一郎君 細谷巖太郎君 江角柳四郎君
 古社寺保存法第十六條ニ依リ國庫ヨリ支出スヘキ金額ニ關スル法律案
 特別委員

伯爵宗 重 望君 子爵錦織 教久君 子爵松平 乘承君
 男爵千秋 季隆君 男爵長松 篤斐君 渡 正 元君
 下條 正雄君 本間 千代吉君 佐藤伊左衛門君
 郵便貯金法案特別委員

子爵平松 時厚君 子爵有馬 賴之君 淺田 德則君
 柴 原 和君 名村 泰藏君 男爵金子 有卿君
 男爵若王子 文健君 奥山 政敬君 廣海 二三郎君
 實用新案法案特別委員

子爵鍋島 直彬君 子爵三島 彌太郎君 子爵松平 直敬君
 平山 成信君 男爵石黑 忠 憲君 男爵南岩倉 具威君
 男爵千田 貞曉君 古澤 滋君 小幡 篤次郎君
 蠶病豫防法案特別委員

侯爵松平 康 莊君 子爵伏原 宣足君 田中 芳男君
 男爵青 山 元君 三 宅 秀君 千坂 高雅君
 馬屋原 彰君 藤田 四郎君 安廣伴一郎君
 煙草專賣局及製鐵所据置運轉資本補足ニ關スル特別委員

伯爵大原 重朝君 子爵山口 弘達君 男爵野田 豁通君
 男爵杉溪 言長君 男爵小早川 四郎君 男爵眞田 幸世君
 武井 守正君 安樂 兼道君 道源 權治君
 海軍工廠資金會計法案特別委員

子爵長岡 護美君 子爵高木 正善君 子爵松平 直平君
 男爵伊藤 雋吉君 男爵相浦 紀道君 關 義 臣君
 男爵川口 武定君 中島 永元君 下村辰右衛門君
 北海道官設鐵道用品資金會計法廢止法律案特別委員

子爵一柳 末德君 子爵板倉 勝達君 宮本 小一君
 男爵楢取 素彦君 男爵中島 錫胤君 三浦 安君

男爵本多 副元君 男爵安場 末喜君 清瀨 善三君
 國庫債券及貯蓄債券ノ利子所得稅免除ニ關スル法律案外一件特別委員

伯爵柳原 義光君 子爵井伊 直安君 小牧 昌業君
 男爵藤村 紫朗君 男爵小野 尊光君 男爵高崎 安彦君
 西村 亮吉君 南郷 茂光君 橋本 雄造君
 在外國帝國專管居留地特別會計法中改正法律案特別委員

侯爵菊亭 修季君 伯爵坊城 俊章君 子爵仙石 政固君
 子爵毛利 元忠君 子爵酒井 忠亮君 男爵船 越 衛君
 男爵辻 健 介君 坂本理一郎君 山口 玄洞君
 ○議長(公爵德川家達君) 散會前ニ御諮リヲ申スコトガゴザイマス、本年ハ
 本日ヲ以テ最終ノ議事ト致シマス、緊急ノ事件ノ起リマセヌ限リハ明治三十
 八年一月二十日マデ休會ヲ致シタイト存ジマス、御異議ハゴザイマセヌカ

〔贊成贊成〕又ハ「異議ナシ」ト呼ブ者多シ
 ○議長(公爵德川家達君) 然ラバ左様イタシマス、本日ハ散會
 午後零時一分散會